

PARIS Simply Amazing!

2016

2016年もパリは変貌を続けます。そして2020年代のパリの顔も少しずつ見えてきました。常に変貌し、革新の先端を行くからこそ、パリは世界で最も魅力的なデスティネーションなのであると言えるでしょう。森記念財団都市戦略研究所の最近の調査によれば、パリは各種交通手段の質の高さとアール・ド・ヴィーヴル(生活を楽しむ術)の分野において世界主要都市の首位に輝いています。

新たな施設のオープン、有名観光地のリニューアル、数々の魅力的なイベントなど文化関連のニュースが、観光デスティネーション、パリの最大の切り札であることは間違いありません。美術館、おしゃれなバー、画廊、デザインホテル、歴史的建造物、人気のレストランなど、パリはかつてなく注目を集め、パリジャンだけでなく観光客にもサプライズを与え続けています。

イベントの生まれる街パリ パリでは一年を通じて、あらゆる領域にわたるイベントが毎日300近く開催されています。最も人気が高いイベントに挙げられるのが「音楽の日Fête de la Musique」や「美術館の夜la Nuit des musées」。セーヌ河岸をビーチに変えてしまう夏のイベント「パリ・プラージュParis-Plages

や市内各地に夜通し多くの芸術作品が展示される「ラ・ニユイ・ブランシユla Nuit Blanche」、あるいは街全体が光り輝くクリスマスのイルミネーションles illuminations de Noëlも見逃せません。2016年には多くの特別展も企画されています。巨匠やクラシックなものとしてはルーブル美術館musée du Louvreでの「ユベール・ロベールとブシャルドンHubert Robert et Bouchardon」展、オルセー美術館musée d'Orsayの「税官吏(アンリ)ルソー Le Douanier Rousseau」展、はたまたジャックマール・アンドレ美術館musée Jacquemart Andréでは「レンブラントRembrandt」展、それに先立つ上半期にはノルマンディーの野外画家たち(モネ、ルノワール、ピサロ...)に捧げる展覧会も。

ファッション好きには装飾美術館musée des Arts décoratifsの「モードの3世紀Trois siècles de mode」展や「バービー人形Barbie」展もあります!現代アートファンなら、大きな国際展示会であるフィアックFIAC(国際コンテンポラリーアートフェア)、アール・パリ・アートフェアArt Paris Art Fairへどうぞ。絵画から写真までさまざまな分野における一流アーティストの企画展も数多く開催されます。ポンピドゥーセンターCentre Pompidouでは「アンセルム・キフェールAnselm Kiefer」展が、グラン・パレGrand Palaisでは「リュシアン・クレルグLucien Clergueやセドウ・ケイタSeydou Keitaの写真展が開催されます。また2016年に第7回を迎えるモニュメンタMonumentaでは黄永砷Huang Yong Pingがグラン・パレのネフNef展示場にそのインスタレーションを展開します。

デザイン関連では、メゾン・エ・オブジェMaison & Objet、デザイン蚤の市Puces du Design、デザイナーズ・デイズDesigner's Daysやパリ・デザイン・ウィークParis Design Weekとイベントが続きます。

グルメ関連も、フーディングFoodingやオムニヴォールOmnivore、「トウス・オ・レストランTous au restaurant(みんなでレストランへ行こう)」と、イベントがもりだくさんです。また今年第2回目となるイベント、テースト・オブ・パリTaste of Paris(人気料理の試食)にはグラン・パレのネフ展示場にフランスの偉大なシェフたちが集結します。

スポーツもローラン・ギャロス・スタジアムでのテニス、全仏オープンRoland-Garros、自転車ロードレース、ツール・ド・フランスTour de France cyclisteのゴール、競馬のアメリカ賞Prix d'Amériqueやディアンヌ賞Prix de Diane、パリ・マラソンmarathon de Parisなど、わくわくするイベントが目白押しです。今年にはさらに、パリをスポーツの都とよぶにふさわしい一大イベント、サッカーの欧州選手権Euro de footballが6月10日から7月10日までフランスで開催され、試合にアトラクションに大人も子供も熱狂する期間となります。

さらにサロン・ド・ショコラ、農業見本市、国際モーターショーなど、業者向け、一般向けの数々の見本市・展示会が予定されており、パリは<マスト>なデスティネーションということがおわかりになるでしょう。

ここ数年、パリでは、ルイ・ヴィトン財団美術館Fondation Louis Vuittonなどの現代美術関連の施設が新規オープンしたほか、2015年1月には、大規模なコンサートホール、フィルハーモニー・ド・パリPhilharmonie de Parisがラ・ヴィレット公園内にオープン。またピカソ美術館musée Picassoの全面リニューアルオープンに続き、ロダン美術館musée Rodin、人類博物館musée de l'Hommeも全面リニューアル、またマイヨール美術館musée Maillolの改装も予定されています。POP(B・パレ・オムニスポール・ド・ベルシー)を世界で5本の指に入る大規模なアリーナに変身させたアコーホテルズアリーナAccorHotels Arenaもその姿を現しました。ここではコンサート、スポーツイベント、世界的規模のショーなどを一年中開催することが可能です。



輝ける街・パリは第7の芸術である映画とも密接につながっており、いくつもの映画がパリを舞台に撮影されています。まるでオープンエアのセットのようなパリの街を、「アメリー」や「ミッドナイト・イン・パリ」などの出演俳優や名場面に関連した場所めぐりで楽しむ観光客も数知れません。



パリはその豊かで多様な施設の数々により、業者向けイベントの開催者から非常に高い評価を受けています。見本市、国際会議、企業のイベントに最適なデスティネーションであるパリでは、今後数年の間にさらなる優れたインフラ整備が実施されます(ポルト・ド・ヴェルサイユの見本市会場Parc des Expositionsの大規模な整備工事、新たな国際会議場のプロジェクトなど)。

人を引きつける街パリ パリはそのライスタイルを日々新しく塗り替えています。ホテル業界では、全体の収容客数、バラエティーに富んだ施設の数とも増え続けています。パリの評価を高めている超高級ホテルは、パリジャンそしてビジターたちに愛されるようあらゆる努力を惜しみません。外資系の大手ホテルグループが新規ホテルオープンにパリを選んでのことからも、いかにパリが魅力的かということが窺われます。リッツレ Ritz、ホテル・クリヨンl'hôtel de Crillon、リュテシアle Lutétiaといった老舗のパレス級ホテルは現在改装を実施中で、近いうちにその全貌を明らかにしてくれるでしょう。まず2016年3月には皆が待ち焦がれたリッツの再オープンが予定されており、2017年にはホテル・クリヨンとリュテシアがそれに続きます。パリ市内には、革新的で驚くようなコンセプトを導入し、テーマを持ったホテルも数多く、その例としてサンク・コデ5 Codet、デュボン・スミスDupont-Smith、マルイユMareuil、サンヴァントロワ・セバストポールle 123 Sébastopol、ロツシュRoch、エクススキExquis、Mギャラリー・ブテM Gallery Boutet、トラントキャトル・ペーle 34B、そしてまたアントワヌAntoine、ユニークな初の船上ホテル、オフ・パリ・セーヌOff Paris Seineなどが挙げられます。

食の分野でも、シェフたちは創造性を追求し、新店舗を開いて料理を提供しています。サン・ラザール駅に出店したエリック・フレッシュEric Frechon、北駅にはティエリー・マルクスThierry Marx、世界にその名をとどろかす名シェフ、アラン・デュカスAlain Ducasseはといえばレ・アールLes Hallesに「レ・シャンポー Les Champeaux」をオープン。証券取引所に店を構えたヤニック・アレノYannick Alléno、ジャン＝フランソワ・ピエージュJean-François Piègeが開店した2軒目のクローバーClover、フランス国立造幣局に移転し、メタル・カフェで大変身の仕上げをしたギー・サヴォワGuy Savoyの店などが話題です。「ビストロノミーbistronomie」は、ビストロの精神と美食の絶妙なコラボで、こちらも人気が続中。続々と新しい店がオープンしています。これらの店は本物の味と地元でとれる素材のエキスパートで、パリならではの楽しみ、料理教室やグルメツアーの舞台となっています。そのほか、注目が集まるストリート・フードや1つの食品をテーマにした、また小規模農家から取り寄せた食材を取り扱ったレストランなど、美味しいスポットがいっぱいです!

パリは今までも、そしてこれからもファッション、高級品、ショッピングの中心地です。冬と夏に行われるバーゲンは、業界の一大イベント。また一年を通じて、店舗の開店や臨機応変なイベントで、つねに新しいものを求めるお客さまを惹きつけています。また、モンマルトルMontmartre、マレMarais、シャンゼリゼChamps-Élyséesといった12カ所の観光地では、日曜日でも店は営業しておりショッピングが楽しめるようになっています。さらにフォーラム・デ・アルも130軒のブティックと高級食品店エディアルHédiardを擁してリニューアルオープンしました。そして世界的に有名な高級ブランドは、みなパリを愛しています。いずれもますますデザイン性が高く大胆な趣向を凝らしたスペースを選んで出店し、サービスの質を競い合っています。パリのどの地区にもバラエティーに富んだお店が並び、クリエイターファンからヴィンテージファッションファン、またフレンチタッチやエスニックタッチのファッションファンまで、あらゆる客層を魅了します。

夜、パリはさらににぎやかで和気藹々の雰囲気包まれます。パリのスタイルは、さまざまなジャンルや時代をとりまぜる、というもので、この街ならどんな要望にも応えられるのです。伝統あるキャバレーやトレンディーなクラブもあれば、どのジャンルにも収まらないスポットもあり、常設の店もあれば臨時開催のソワレもある。パリのナイトライフは実に多種多様です!

新しいスポットも続々オープンしてパリの夜を賑わせています。例を挙げればブラスリー・バルベス

Brasserie Barbès、メゾン・スーケMaison Souquetのバー、ベルショワールPerchoir、ポワン・エフェメー Point Ephemère、バトファールBatofar、新装マティスMathisなど。コンサート、カクテルバー、はたまたエレクトロシーンの数々(ワンダーラストWanderlust、ヨーヨーYoyo、ソーシャルクラブSocial Club、バダブムBadaboum...)がパリのナイトライフを刷新し、WATOなどの新グループが企画するソワレに彩りを加えています。

クリエイティブなパリ 毎年何百万もの来場者があることからわかるように、パリの美術館・博物館、歴史的建造物は多くの人々を魅了し続けています。企画展も人気で、毎年入場者数の記録を上回っています。

カルチャー分野の活況は観光産業全般にも及び、あらゆる種類の新企画がパリで形になって来ています。とりわけウェルカム・シティ・ラブWelcome City Lab.などから派生した若い企業グループが提案する新しいスタイルのパリ滞在が注目です。それはパリジャンたちのパリParis des Parisiens、訪れるひとりひとりにこの町を象徴するライフスタイルを体験し、トレンディーなパリ、素顔のパリの両方を知ってもらおうというものです。





エコレスポンスを大切にする街パリ 460もの公園や庭園を筆頭にパリには観光客も体験できるエコロジーのあらゆる切り札がそろっています。特に交通機関には力が入れられており、整備されたバスレーン、トラムウェイの路線拡大、誰でも自由に使えるレンタサイクルサービスのヴェリブ Vélip'や、自動車のカーシェアリングシステム、オートリブAutolib'のネットワーク拡大、開設100年を迎えながら大変便利で使いやすい16路線の地下鉄など、きわめて充実しています。さらにセヌ河岸の道路とレピュブリック広場も拡張工事を終了し、よりエコロジーでダイナミックな姿へと変身。ホテル業界も環境保護に力を入れており、ラ・クレ・ヴェルトLa Clef VerteやエコラベルÉcolabel、グリーングローブGreen Globeといったエコロジーのラベル認証を受けたパリのホテルがますます増えています。(かくしてパリ観光局の持続可能な宿泊施設憲章に加盟するホテルは現在450軒にのぼります) 2015年末には国連気候変動枠組条約パリ会議 Paris Climat COP21が開催され、パリで環境や持続可能な発展の問題にスポットがあてられました。また、パリはあらゆる人に開かれた街であり、障害のある人に係るアクセシビリティを高めるため、各地で整備が進められています(エッフェル塔の2階、ザッキン美術館Musée Zadkineなど)

変化する街パリ パリは毎日少しずつ、境界線を外に広げています。まずバーチャルな面では、パリには公園・庭園、カフェ、文化施設などにWi-fiのネットワークがあり、世界中とつながることができます。地理的な面でいうと、パリは近隣コミューンとのつながりを深めています。パリ北東部は、18区と19区をサン・ドニSaint-Denis とオベルヴィリエAubervilliersの方へ広げ、パリ東部は、新しい境界線をリラ門La porte des Lilasよりも外に描こうとしています。野心的な都市計画や建築も見どころで、目下変身中のレ・アル地区のカノベCanopée(ガラスの大屋根)や開発中のボーグルネルBeaugrenelle地区、新しい高層建築(パティニョル再開発地区の新裁判所 nouveau Palais de Justiceなど)が注目です。こうしてパリは未来の世界を作る都市としての地位を確固たるものにしていくのです。

文化関連も負けてはいません。大胆な改修を施してオープンしたフランス国立造幣局モネ・ド・パリ Monnaie de Parisは新たな文化そしてショッピングの中心となるでしょう。スガン 島l'île Seguinの再開発と、ヴァレ・ド・ラ・キュルチュール計画Vallée de la cultureも実施中で、2017年初めに完成予定です。これに先がけ、2016年末にはスガン島にシテ・ド・ラ・ミュージックCité de la Musiqueもオープンします。こうした数々の大プロジェクトは、すでにパリ市内に実現した変化や進化の延長線上にあるいくつかの例なのです。



パリ観光会議局プレスコンタクト

+33 (0) 1 49 52 53 27 | press@parisinfo.com

詳細情報 : <http://press.parisinfo.com>

フォトライブラリー^d : <http://pro.photos.parisinfo.com/en/>

OTCP/Marc Bertrand, Amélie Dupont, Sarah Sergent; AccorHotels Arena; Batofar ; Bazaristain; Canopée des Halles/P. Berger et J. Anziutti Architectes; Dandy; Lido Paris; Monnaie de Paris; Musée de l'Homme/P. Tournebœuf Opic Tendance Floue; Pâtisserie C. Lignac/Y. Deret.

データで見るパリ



● パリの観光に関するデータ

- 2つの飛行場：ヨーロッパ第一のハブ空港。6つの駅は外国の都市とつながっている
- 2時間15分：パリ-ロンドン間
- 6時間25分：パリ-バルセロナ間
- 23 500台：自由に使えるレンタサイクルサービス「ヴェリブ」の台数
- 10000室以上：ホテルの客室数
- 297：メトロの駅の数。13分：パリを横断するのにかかる時間

● パリを選ぶにはこんな理由も

— 物価の安さ

- サンドイッチ：5€ / クロワッサン：1€
- コーヒー：2€ / セットメニュー：15€
- メトロの切符：1,80€
- 14の美術館・博物館が入場無料・

— 豊かな文化遺産

- 37の橋、
- 10 100トン：エッフェル塔に使われている鉄鋼の量
- 465の公園や庭園
- 2 000種の動物
- 6 500年の歴史・

— 充実した文化施設

- 120：チュイルリー公園の彫刻の数
- 36 000：ルーヴル美術館で展示されている作品の数
- 200の教会
- 1430万人がノートルダム寺院を訪れる・

— ショッピング

- 17 500軒のショップ、4つのデパート
- ヨーロッパ域外からの観光客には12 %の免税
- 年に69日間バーゲンが行われている・



— イベント

- 一日に300以上のイベントが開催されている
- ニューイ・ブランシュでは130万人が街に出る
- パリ・プラージュでは1 500トンの砂が使われる・

— 多種多様な娯楽

- パリのオペラ座では450もの上演が行われる
- パリのキャバレーで一晩に開けられるシャンパンは、2300本
- 10 000軒のバー、レストラン
- 毎日500本の映画が上映されている
- 毎日100のクルージングが出発する・

— アート、ファッション

- 25 000人のアーティストがパリで活躍している
- 950を超える映画撮影がパリで行われた



— ビジネスの会合

- 2014年には978を超える会議を開催
- 15の会議場、展示場
- 展示スペースは600 000 m²以上



パリ観光・会議局 (OFFICE DE TOURISME ET DES CONGRÈS DE PARIS)

世界最大の観光都市であるパリは、古い文化遺産だけでなく、流行の最先端をとりいれるスタイルゆえに、多くの人々を惹きつけます。パリ観光・会議局は、パリ観光に役立つ情報をご提供いたします。

● データ



- 3つの主要な任務：観光客を迎えること、情報を与えること、観光の促進。
- 57万人以上が2015年に通年営業の観光案内所に来場。
 - パリ観光・会議局本部にある案内書はパリの中心部、ルーヴル美術館とオペラ座の間にあります。住所：25, rue des Pyramides, Paris 1er
 - จุดให้ข้อมูล ปารีส市内 4 か所の出張所でも観光客を迎えています。北駅、アンヴェール駅、東駅、ポルト・ドゥ・ヴェルサイユ見本市会場。パリ市庁舎内にも案内書「パリ・ランデヴー」(Paris Rendez-vous)があります。
 - 2015年には1300万のアクセスがインターネット・サイト PARISINFO.com にありました。4つの主要サイトは、フランス語、英語、スペイン語、ドイツ語。7つのミニサイトは、イタリア語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語、中国語、日本語、韓国語。
- SNSアカウント「Paris je t'aime (パリ・ジュテーム)」からの発信も
Facebook – 280k いいね・Twitter – 85k フォロワー・Instagram – 80k フォロワー
- 約3万部の各種無料ガイドブックの発行。英語版とフランス語版。パリの街歩きガイド Paris City Guide
パンフレット - Paris Guided Tours and Visits。

● 旅行者、プレス向けツール

- フランス語、英語、スペイン語、ドイツ語によるフォトライブラリー パリの多様な魅力を伝える4000枚の高画質写真をそろえております。メディアの記事やパンフレットにご利用下さい。
- 数カ国語で書かれたプレスリリース
- インフォメーション資料「パリ2016 Paris 2016」
 - フランス語、英語による資料3種「芸術と文化 Arts et culture。」
 - 多国語による資料5種「ライフスタイル Art de vivre。」
 - フランス語、英語による資料3種「シーズンごとのパリ情報 Paris en toutes saisons。」
 - フランス語・英語による資料4種「オーダーメイドのパリ Paris sur mesure。」
- 英仏2カ国語によるニュースレター ParisNews
- プレス専用サイト1種類 – press.parisinfo.com
- パリのポスター4種類 (60×80cm)

